

DX・GXという二重の社会変革と「普遍的な価値」について

東京大学 坂田一郎

次期国土形成計画は、初めて、DXとGXという2重の社会変革を本格的に捉えたものとなる。それらをチャンスと捉え、**新たに可能となった手段・方策**（例えば、リアルタイム・リアルデータの活用）も用いて、既存の制約を乗り越え、「普遍的な価値」を実現する。同時に、社会変革に伴い、**実現すべき「普遍的な価値」の中身が変化**する。現在の価値評価に合わせるのではなく、未来の価値評価を見通して、計画を考える必要がある。

<幾つかの視点>

- DXによる山間部、半島、離島、EEZを含めた日本列島のスマートアイランド化
 - ー都市圏の変化、地域からの価値発信の拡大・迅速化、個別最適化によるインクルーシブなサービスの提供、国土管理の省人化・持続可能化
 - ー次世代通信技術（5G, 6G, VDESなど）に加え、プラットフォームとしての低軌道衛星、高高度飛行体（HAPSやLoonなど）、SINETなどのデジタルインフラが寄与
- グリーン・ファイナンス、トランジション・ファイナンスの適切な拡大によるGXの駆動
 - ー国家による投資との比較で、経済と社会の間を調整する民間資金の役割が相対的に増加
 - ー地域において価値を体現する事業・サービスに対してそれら資金を呼び込む方策が鍵
- 国土全体でのGX（やSDGs）目標実現のための地域からの社会的価値創出の大幅拡大
 - ー国土全体としては、大都市に対して、地方が社会的価値を輸出超過する未来構造
 - ースマート化、グリーン・ファイナンスに加え、知的対流⇒知識結合、多様性の価値化が鍵